

プラス の価値を提供し、 地域の豊かな未来をともに築く

企業理念

私たちが
大切にする価値観

お客さま第一

すべての原点は「お客さまのために」

挑戦と成長

たゆまぬ挑戦で「成長を喜びに」

チームワーク

風通しの良い組織で「多様性を力に」

長期ビジョン
「+ α Vision 90」
～未来創造への挑戦～

創立90周年に目指す姿

目指す姿

お客さま満足度No.1の
ソーシャル・ソリューショングループ

ターゲット

社会 価値	サステナビリティKPI	財務KPI	経済 価値
	■ さまざまな社会課題の 解決に向けた取り組み	■ 連結ROE10.0%以上 ■ 連結当期純利益350億円以上 ■ 連結自己資本比率10%台	

第20次中期経営計画

「+ α Vision 90」フェーズ1
～挑戦と変革～

創立90周年に目指す姿の実現に向けた
フェーズ1の3カ年計画

計画期間

2024年4月～2027年3月（3年間）

位置づけ

成長エンジンの再構築

CONTENTS

京葉銀行について

- 3 京葉銀行のあゆみ
- 5 主要マーケットのポテンシャルと京葉銀行の強み
- 7 財務ハイライト
- 8 非財務ハイライト

価値創造ストーリー

- 9 トップメッセージ
- 15 社外取締役インタビュー
- 17 価値創造プロセス

価値創造に向けた戦略

- 19 サステナビリティへの取り組み
- 21 長期ビジョン
- 22 中期経営計画
- 23 基本戦略① オンリーワンの課題解決型営業
- 29 基本戦略② 営業改革
- 33 基本戦略③ 人財改革
人事担当役員メッセージ
- 41 基本戦略④ 経営基盤改革
財務担当役員メッセージ

価値創造を支える基盤

- 49 コーポレート・ガバナンス
- 55 役員一覧
- 57 リスク管理への取り組み
- 60 コンプライアンスへの取り組み

持続可能な社会形成に向けた取り組み

- 63 環境への取り組み
- 67 ステークホルダーとのコミュニケーション

データ

- 71 主要財務データ
- 72 コーポレートデータ
- 73 株式情報
- 74 ブランドキャラクター
「ケイヨウギンコウのケイヨウインコ」

開示情報体系図

ストーリー性

財務

非財務

専門性

編集方針

本書は、お客さま、株主・投資家をはじめとする幅広いステークホルダーの皆さまに、京葉銀行グループの中長期的な価値創造について、より一層の理解を深めていただくことを目的に、財務・非財務の視点から体系的にまとめています。本書の編集にあたっては、IFRS財団の「国際統合報告フレームワーク」および経済産業省の「価値協創ガイド」などを参照しています。

報告対象期間：2025年度（2025年4月1日～2026年3月31日）※一部、2026年4月1日以降の活動内容などを含む。

報告対象範囲：原則として、京葉銀行およびグループ会社

コーポレート
スローガン

プラス  で、未来をともに。

京葉銀行グループ企業理念について、広く共感いただくためのコミュニケーションワードです。地域、お客さま、株主、従業員などのすべてのステークホルダーの皆さまに、京葉銀行グループ企業理念を体感いただくことを目指し、コーポレートスローガンを中核に、コミュニケーションを深めていきます。

コーポレート
シンボル



「 α 」の文字が描く重なりと上方へ伸びてゆくラインは、人と人との“きずな”と、そこを出発点に無限に伸びてゆく未来をあらわしています。コーポレートシンボルの「アルファバンク」は、“人とのきずなを大切に、豊かな未来を切り拓いてゆきたい”“常に皆さまにプラスアルファを提供し続ける銀行でありたい”そんな京葉銀行の思いをあらわしています。



京葉銀行のあゆみ

1943 年（昭和18年）3月

千葉合同無尽株式会社を設立
（設立日3月31日）



1965 年（昭和40年）5月

本店新設



1973 年（昭和48年）4月

東京証券取引所市場
第2部に上場

1974 年（昭和49年）2月

東京証券取引所市場
第1部に上場

1975 年（昭和50年）4月

第1期オンラインシステム
稼働

1998 年（平成10年）

1月
新総合オンラインシステム
稼働

3月
株式会社京葉銀保証サービス
を設立（現・連結子会社）

2000 年（平成12年）4月

ATMによる外貨預金の
取扱開始（千葉県内初）

2010

2015 年（平成27年）3月

本部棟「千葉みなと本部」竣工



2020

2022 年（令和4年）4月

東京証券取引所
プライム市場に移行

2023 年（令和5年）3月

創立80周年

2024 年（令和6年）4月

企業理念を再定義

長期ビジョン
「+α Vision 90」
～未来創造への挑戦～を
策定

第20次中期経営計画
「+α Vision 90」フェーズ1
～挑戦と変革～を策定

2025 年（令和7年）1月

新勘定系システム稼働

2026 年（令和8年）6月

監査等委員会設置会社に移行

1940

1951 年（昭和26年）10月

商号を株式会社千葉相互銀行に
変更

1950

1960

1970

1980

1985 年（昭和60年）11月

第2期総合オンラインシステム稼働

1989 年（平成元年）

1月
株式会社京葉銀カードを設立
（現・連結子会社）

2月
普通銀行へ転換し、商号を
株式会社京葉銀行に変更
コミュニケーションネームを
α（アルファ）バンクとする



1989年2月
普通銀行に転換

創業からの預金と貸出金の残高推移（年度末）

■ 預金 ■ 貸出金

1951年10月
相互銀行に転換

1944 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020 (年度)

千葉県内の
主な動き

1950年代：京葉工業地帯の形成開始
1966年：東京湾岸の埋め立て開始
1971年：新空港自動車道（現東関東自動車道・
宮野木～富里）開通
1978年：新東京国際空港（現成田国際空港）開港
1979年：北総開発鉄道（現北総鉄道）開業

1983年：東京ディズニーランド開園
1986年：JR京葉線開業
1988年：千葉都市モノレール開業
1989年：幕張メッセ開場
1992年：千葉ロッテマリーンズが
千葉市へ本拠地移転

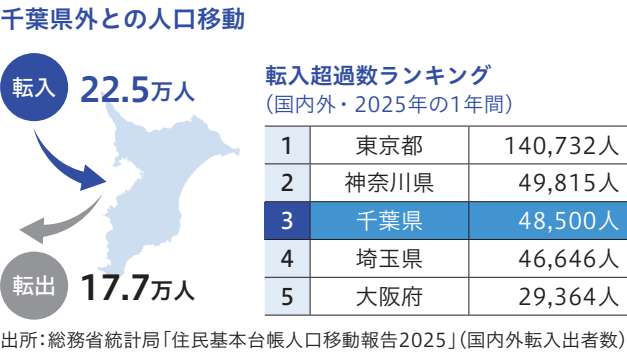
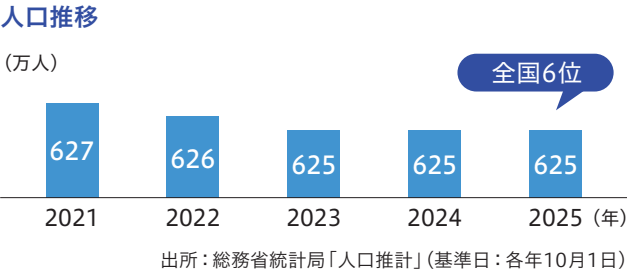
1996年：東葉高速鉄道開業
1997年：東京湾アクアライン開通
2001年：東京ディズニーシー開園
2005年：つくばエクスプレス開業
2011年：東日本大震災発生
2012年：三井アウトレットパーク 木更津開業

2013年：酒々井プレミアム・アウトレット開業
2023年：千葉県誕生150周年
2025年：千葉マリンスタージスタムの建替計画公表
千葉ロッテマリーンズファームの君津市への移転公表
アルティアリー千葉の新アリーナ建設計画公表

主要マーケットのポテンシャルと京葉銀行の強み

主要マーケットのポテンシャル

当行グループが主な営業エリアとする千葉県は、農業、漁業、工業、商業がそれぞれ全国トップクラスのバランスのとれた産業構造を形成しています。また、人口の転入超過や交通インフラの整備が一段と進んでいることに加え、海などの豊かな自然は観光資源にもなり、今後のさらなる発展、成長が見込まれる高いポテンシャルを有しています。



- ▶ 全国6位の人口規模
- ▶ 他県からの転入超過数は全国3位

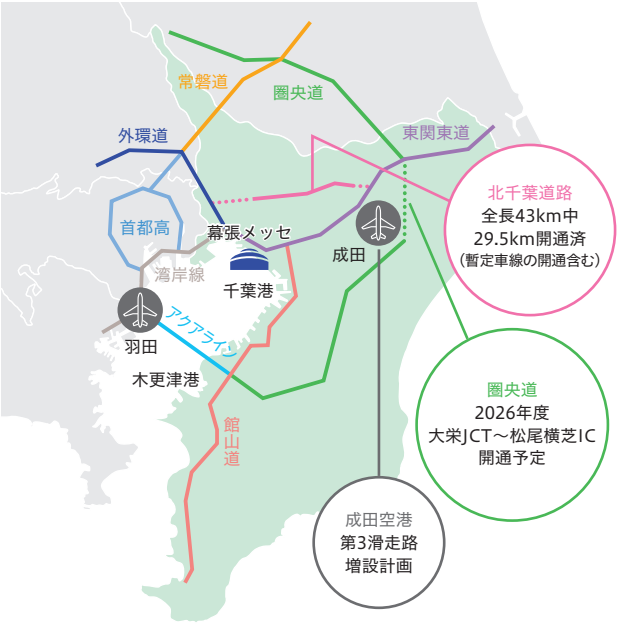
バランスの良い産業構造

農業	農業産出額	4,533億円	4位※1
漁業	海面漁業漁獲量	7.9万 t	9位※2
工業	製造品出荷額等	11.9兆円	8位※3
商業	年間商品販売額	13.0兆円	9位※4
事業所数		18.2万社	9位※5
開業率		4.5%	4位※6
港別貿易額の合計		48.7兆円	1位※7
県民所得		19.8兆円	6位※8

出所：※1 農林水産省「令和6年生産農業所得統計」
※2 農林水産省「令和6年漁業・養殖業生産統計」
※3 総務省・経済産業省「令和3年経済センサス(製造業)」
※4 総務省・経済産業省「令和3年経済センサス(卸売業・小売業)」
※5 総務省・経済産業省「令和3年経済センサス(産業機能的集計)」
※6 中小企業庁「2024年版中小企業白書/小規模企業白書」
※7 財務省「令和6年貿易統計」輸出と輸入の総額(千葉県は成田国際空港、千葉港、木更津港の合計)
※8 内閣府「令和4年度 県民経済計算」

さまざまな産業が全国上位に位置する肥沃なマーケットであり、交通インフラの整備によって企業の進出先としての魅力も高まっている

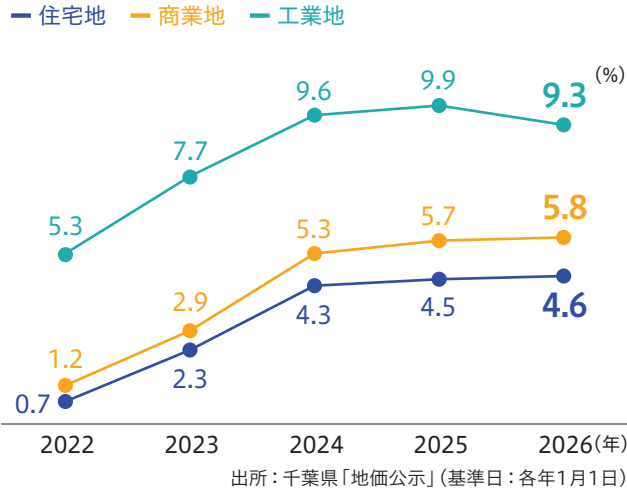
充実した交通インフラと地理的特徴



インフラ整備が進む物流・人流の重要拠点

需要増に伴い上昇が続く公示地価

公示地価(対前年平均変動率)の推移



転入超過や産業構造、交通インフラを背景に、千葉県の公示地価は全用途で上昇が続いている

京葉銀行の強み

前述のようにポテンシャルが高く将来性のある千葉県に顧客基盤を持ち、地域密着型のリテール営業力が当行グループの強みです。県内トップクラスの店舗網を活かした住宅ローンや、個人・中小企業向けのコンサルティングを軸に、サービスを展開しています。

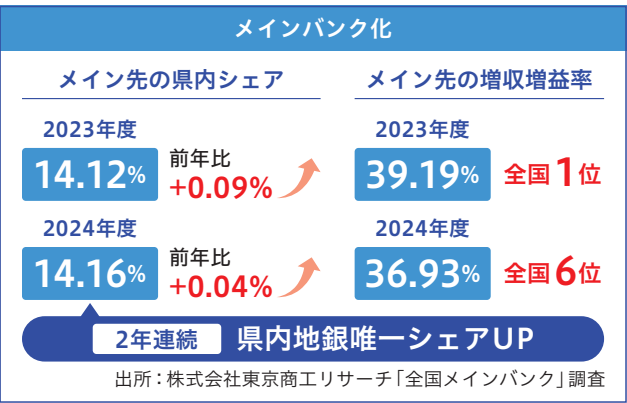
京葉銀行の強みを活かした戦略の展開

法人のお客さまの課題			
生産性の向上	戦略構築	後継者不足	人材不足
	DX	販路拡大	資金調達

未来伴走シート※1を活用した深度ある対話

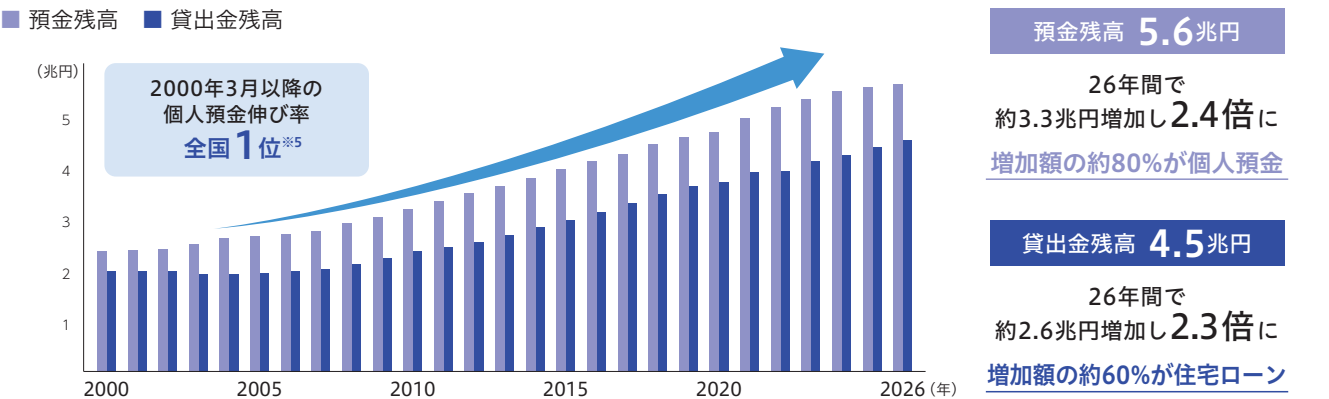
お客さまとことん理解・目指すゴールとプランを共有

カスタマイズサービスで伴走	
経営計画策定	事業承継・M&A
ビジネスマッチング	ファイナンス

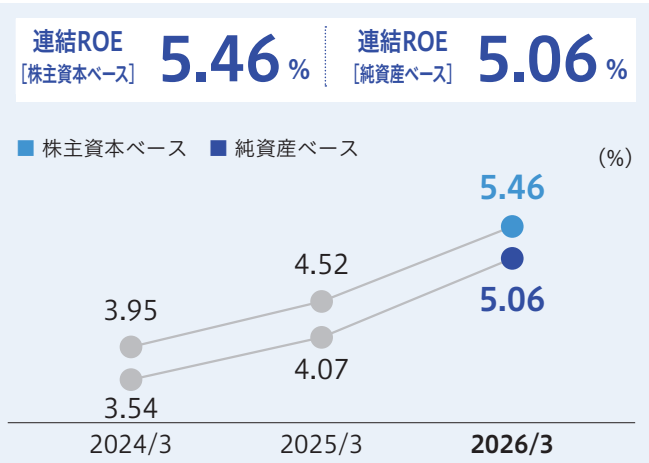
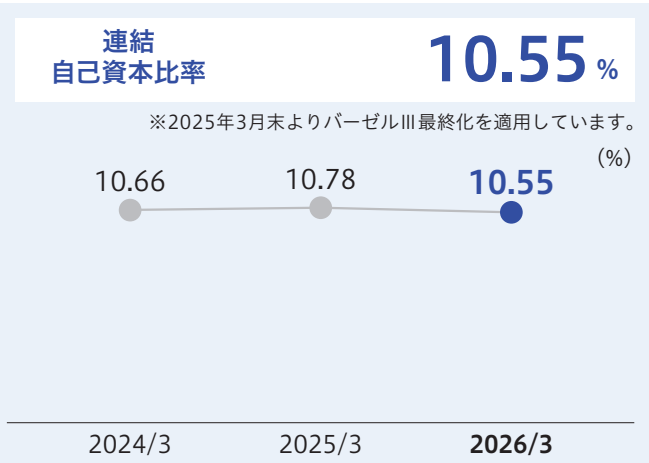
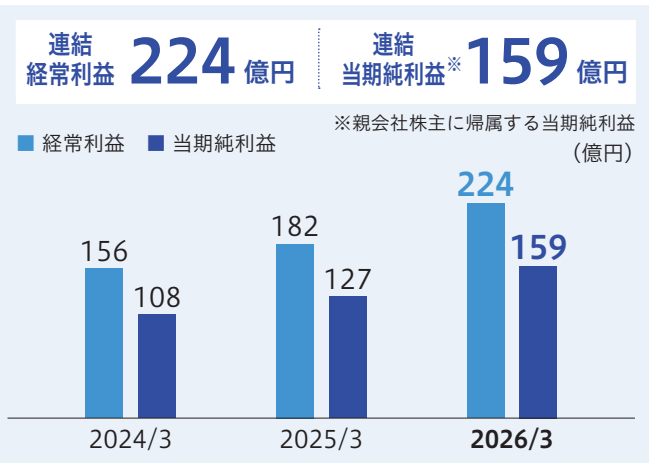
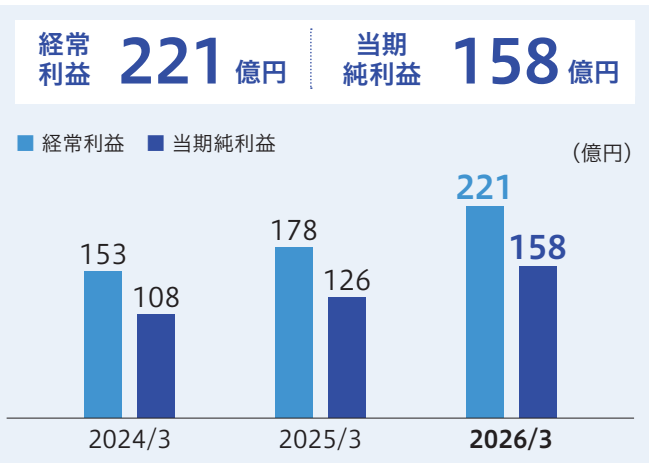
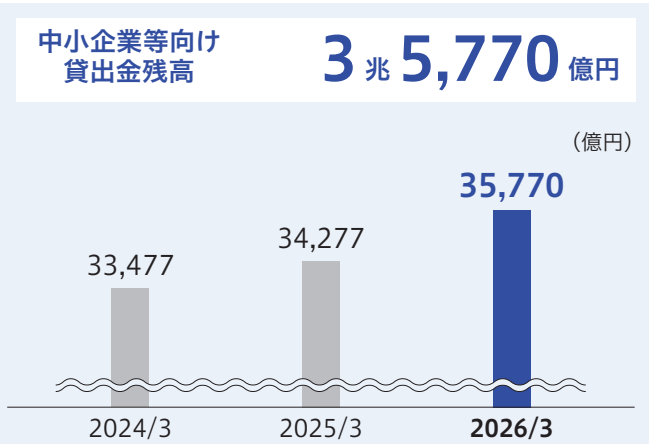
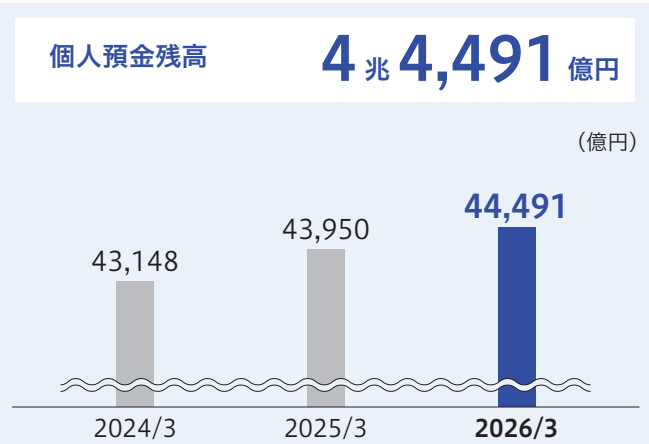
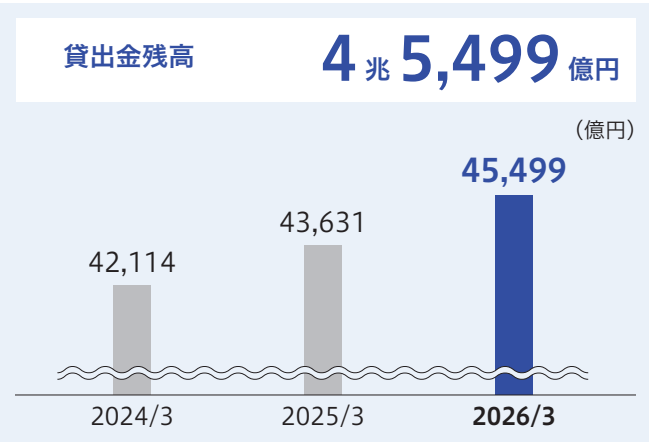
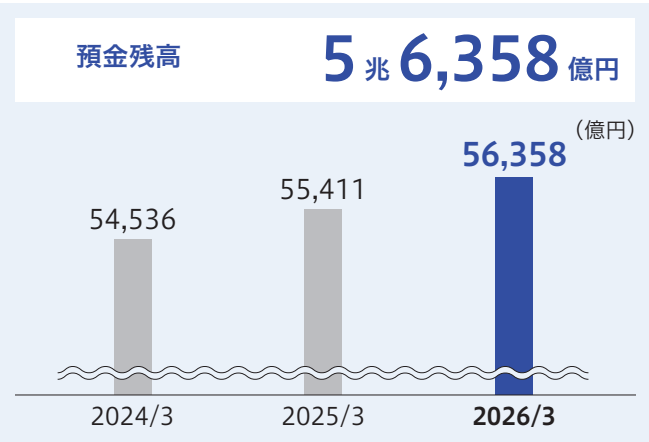


※1 お客さまとの対話を通じて、強みや経営課題、目指すゴールを共有し、お客さまの将来像や事業計画に沿ったコンサルティング提案を行うためのツール
※2 現在の収入や年齢等から将来の収支バランスを予測し、お客さまのライフプランに沿ったコンサルティング提案を行うためのツール
※3 資産状況やご家族への想いを「見える化」し、お客さまの課題解決に向けたコンサルティング提案を行うためのツール
※4 出所：上場地銀73行・グループの2026年3月期決算より当行算出

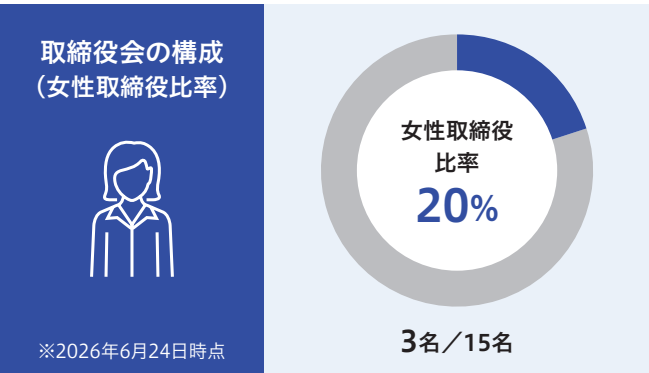
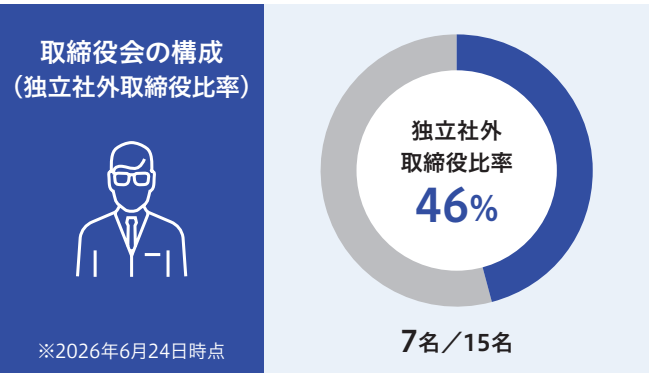
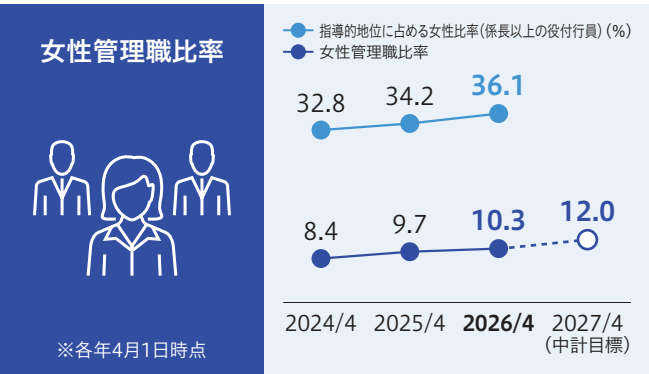
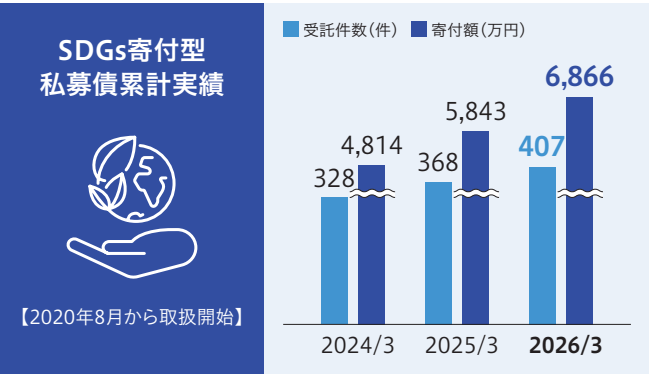
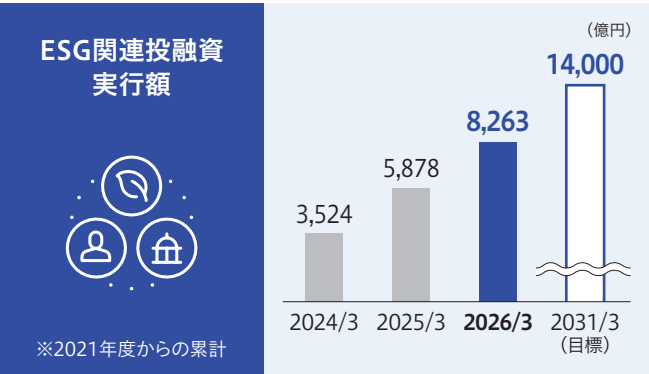
成長性



財務ハイライト



非財務ハイライト



格付情報



外部からの評価



※ FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに株式会社京葉銀行が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。 <https://www.lseg.com/en/ftse-russell/indices/blossom-japan>